

指宿市におけるウォーターフロント開発に関する調査研究

鹿児島大学工学部 正員 ○ 豊田昭三、 Venkataramana Katta
 鹿児島市水道局 上 宗弘
 東急建設(株) 橋本康範

1. 研究の目的

これまでの日本の都市の湾岸部は、港湾機能や商業機能に占有され都市生活者が憩える空間は限られていた。しかし、近年の生活の豊かさや余暇時間の増加に伴って自然性回帰の場を望む都市生活者の社会的要請として、湾岸部における親水空間が求められている。また都市機能の分散化や土地不足の解消、湾岸部の港湾機能の高度化と併せ、ウォーターフロント(以下W. F)開発がその地に及ぼす影響は計り知れない。そこで、本研究では指宿市におけるW. F計画の調査研究を行い、一大観光拠点の形成・地域の再開発整備の基本計画を策定することを最終的な目的とする。

2. 研究の概略; 2-1 (調査対象地域の現況・問題点の把握)

- ①指宿市は、薩摩半島の南端部に位置し温暖な気候と美しい自然(霧島、屋久国立公園)や海岸線を有し「南国」のイメージが強い。しかし、海岸部の離岸堤や護岸等が周辺の自然性を失わせている。
- ②指宿市には天然砂むし温泉や池田湖、魚見岳等の全国的に見ても素晴らしい観光資源が存在し、かつては国内における新婚旅行のメッカであった。しかし現在では宿泊・観光施設の老朽化が目立ち、日帰り客数の割合も多く平成5年度の観光宿泊客数は前年度と比べ12%強の減少となっている。
- ③指宿市内には、橋牟礼川遺跡を中心に数多くの文化財が存在し、市立考古博物館の建設も進行中である。
- ④指宿港の土地利用には無駄が目立ち有効利用されていない。また、各地を結ぶ高速ジェットホイル船が定期的に就航している為、旅客ターミナルビルを含めて港湾機能の高度化が望まれる。
- ⑤指宿市内を貫く国道226号線や市内各地点からの湾岸部へのアクセス路の整備が早急に必要である。

以上の調査より指宿市には多くの観光、自然、歴史資源が存在しているにも関わらず、それらを有効に活用出来ていない現状がある。しかしながらW. F開発における指宿市湾岸部の開発ポテンシャルは非常に高いレベルにあることも認識できる。

2-2 (指宿市周辺を取り巻くウォーターフロント関連プロジェクトの調査研究)

県と指宿土木事務所が錦江湾ふれあいのW. F整備事業として、指宿市湯の浜地区にボードウォークやテラス等を設置している。また92年4月に、指宿市摺ヶ浜地区の商工業者を中心として、魅力ある都市景観を整備するための基本構想がまとめられた。これは民間サイドからの積極的な働きかけとして評価できる。

2-3 (指宿ウォーターフロント計画の整備方針の策定)

指宿W. F計画の領域は国道226号線と海岸線より300mの水域で囲まれた地域とする。この領域よりゾーニングを行ない、各ゾーンについて総合的な観光リゾートを目指した整備方針を定める。

(Aゾーン) 既存観光施設、宿泊施設の再整備を行いプロムナードやアクセス路、商業施設等の整備も行う。観光客に旅情を感じさせ、質の高い温泉リゾートを目指した整備を行う。
(Bゾーン) 市街地を活性化しファッション性を高める施設整備を図り指宿港や指宿駅前広場に新たな商業施設の整備を行う。交通拠点としてのバスターミナルを新設する。
(Cゾーン) 海水浴やマリンスポーツ・キャンプなど様々なレジャーが楽しめる場とする。魚見岳はアクセス路の改善を図り素晴らしい展望を快適に楽しめるよう展望施設等を整備する。

ただしAは観光・歴史ゾーン、Bは商業・物流ゾーン、Cは総合レジャーゾーンとする。

2-4 (ABCゾーンへの導入施設及び利用計画の策定)

(Aゾーン) 天然砂むし温泉施設、新たなリゾートホテルを中心に、その周辺のプロムナード整備と離岸堤・突堤の修景を行う。やみげ品店等を集約しフェスティバルマーケットとして観光客の集客を高める。また橋牟礼川遺跡と考古博物館を他の施設とリンクさせ観光ルートに組み込む。

(Bゾーン) 指宿港は旅客ターミナルビルや活魚センターを中心に、水上バスの運行や、新鮮な海の味を体験してもらう。指宿駅は駅ビルを中心にグレードの高い列車の運行により観光客の利用率を高め、多種多様なテナントでのショッピングを楽しんでもらう。また、たばこ産業工場跡地にバスターミナルを新設し、各ゾーンと他の観光地を効果的に結ぶ中心的な機能を持たせた施設とする。

(Cゾーン) マリーナ施設や人工砂浜を核施設とし、クアハウスやミニサッカー場水辺公園を海辺に設置しオフシーズンにも対応する。魚見岳には展望台やハングライダー場、知林ヶ島にはキャンプ場の設置など主にレクリエーション施設を整備する。またマリーナ施設管理のためのクラブハウス、人工砂浜利用客のためのシーハウスを設ける。特に人工砂浜の水質維持・管理には配慮する。

(ABCゾーン)

①利用客数に応じた駐車場の設置を行う。特にAゾーンには観光バスの乗り入れが予想されバス専用のスペースを設ける。また積極的な植樹を行い、利用施設とはスカイデッキで連結させ安全性を高める。

②水辺公園は空間の連続性を失う事のないようプロムナードと効果的に連携させる。またプロムナードには水難事故防止の柵を設け、積極的に照明を配置し夜景の演出に努め、階段護岸により親水性を高める。

③湾岸沿いの県道下里湊宮ヶ浜線は植樹や街灯を整備し、国道226号線から各ゾーンへのアクセス路と、ABゾーンを横断的に結ぶ湾岸道路の導入により、全体のネットワーク化を図り、車利用者の利便性を高める。

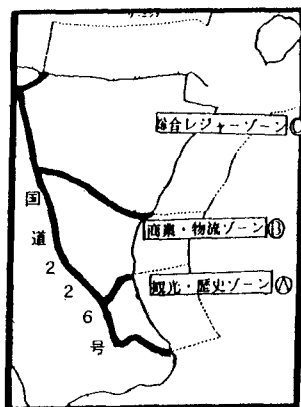
④水上バスや列車、シャトルバス等の公共交通機関を重点的に整備する。県施工による指宿市のボードウォーク施設

3. まとめ

W. F のリゾート開発は一般に若い年齢層を対象というイメージがあるが、本研究においては指宿市を天然砂むし温泉を核とした温泉街としても確立させ、和風旅館とリゾートホテルが混在し、観光客の様々な行動を誘発するレジャー施設を配した広い年齢層に受け入れられる観光地を目指す事を考えた。今後の課題としては、指宿市の一部が霧島・屋久国立公園に含まれ開発するにあたり様々な制約を受けると共に開発による自然への影響が懸念される。民間開発においては投下資金に見合った利潤が得られるか否かも問題である。また施設整備に必要な総予算やそれらの経済波及効果の検討も成されていない。従って今後も本研究が継続的に引き継がれこれらの問題の解決を図り、一日でも早い指宿市のW. F 計画の実現を望む。

【参考文献】

横内憲久・清水治彦・桜井慎一・大島洋一・橋本樹宣「ウォーターフロントの計画とデザイン」；新建築社統計いぶすき(1994)；指宿市役所



ゾーニング

